



「リサーチ・アドミニストレーターを育成・  
確保するシステムの整備」（リサーチ・  
アドミニストレーションシステムの整備）  
事業進捗状況評価報告

平成25年6月19日

名古屋大学

理事(研究・学生支援・入試関係担当)・副総長

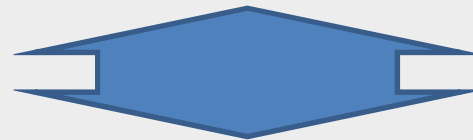
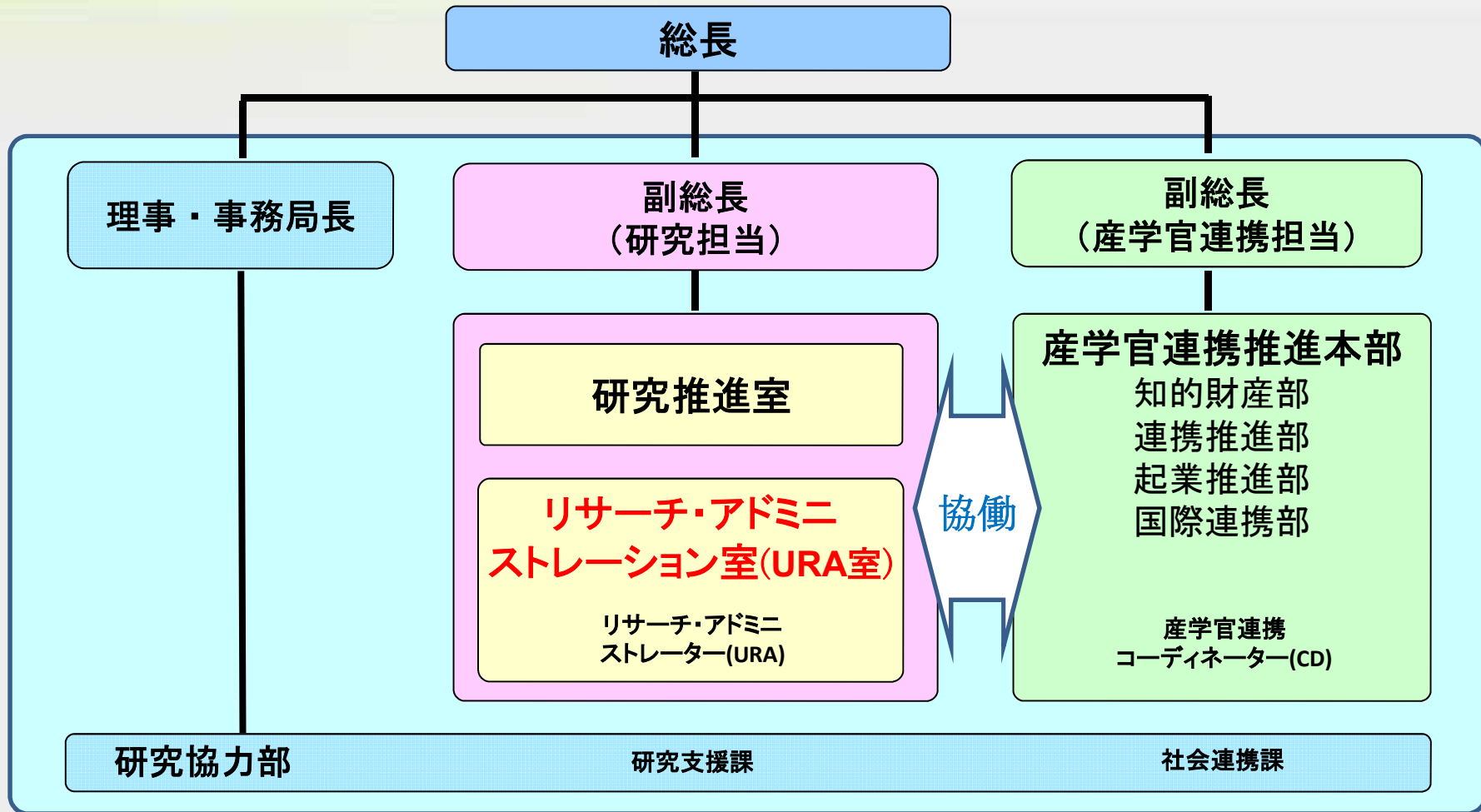
リサーチ・アドミニストレーション室 室長

國枝 秀世

# 名古屋大学リサーチ・アドミニストレーション室（URA室）について

- 平成23年度の補助事業で採択、平成24年2月1日発足。
- 室長：理事（研究担当）・副総長、副室長：2名
- 10名のURAを新規雇用（シニアURA 2名、URA 8名）
- これまでの主な成果
  - ◆ 拠点形成型プロジェクトの申請支援、採択後のプロジェクト立ち上げ支援  
（世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)、橋渡し研究加速ネットワークプログラム、臨床研究中核病院整備事業、地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業 等）
  - ◆ チーム型研究、個人研究の申請支援  
（戦略的省エネルギー技術革新プログラム、IT融合による新社会システムの開発・実証プロジェクト、A-STEP 等）
- 今後の活動
  - ◆ 現在移行準備中の新研究支援組織においてURAを明確に位置付け、「研究力強化実現構想」の実施を中核となって担う予定。

# 名古屋大学の現研究支援体制

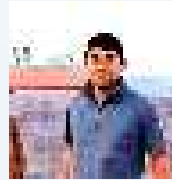


各部局・研究者

# 名古屋大学URA室のメンバー

平成25年年度当初の体制

**渡辺副室長**  
総長補佐(研究推進担当)  
研究推進室副室長



**國枝室長**  
理事(研究担当)・副総長



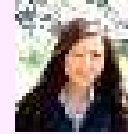
**武田副室長**  
産学官連携推進本部  
連携推進部長



## ライフイノベーション

松谷シニアURA

天野URA



## グリーンイノベーション

田中URA

渡邊URA



厚生省、文科省、経産省などの医療・介護・健康などに関する競争的資金の獲得を支援する。  
産学官連携推進本部の医学・バイオチーム（知財を含む）とも連携して、研究プロジェクトの具体的な立案を行う。

ライフ

経産省、農水省、環境省、NEDOなどを中心に、環境・CO<sub>2</sub>削減などに関する競争的資金の獲得を支援する。  
産学官連携推進本部の環境・植物チームとも連携し、研究プロジェクトの具体的な立案を行う。

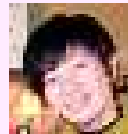
グリーン



## ものづくり

虎澤シニアURA

経産省、文科省、NEDOなどを中心に工業分野に関する競争的資金獲得の支援を行う。産学官連携推進本部も協力して研究プロジェクトの具体的な立案に従事。



## まちづくり

吉田URA

地域活性化に関する総務省、農水省、内閣府などの競争的資金の獲得を支援する。農商工連携やNPOとも連携。

まち



## ひとづくり

玉井URA

URAの育成研修を担当するとともに、社会人研修等をはじめとする人材育成プロジェクトを立案・実施する。

ひと



## サイエンス・コミュニケーション

戸次URA

学内におけるアウトリーチ活動の枠組みを構築し、研究者に提供するとともに、サイエンスカフェなどを立案・実施。SciCom



## 対外的連携窓口・出展業務

大住URA

外部からの問い合わせ窓口。担当のURA・産学官連携コーディネータを紹介する。包括提携企業等との連絡業務も担当。対外窓口



## 法的・倫理的支援

石川URA

安全保障貿易管理、利益相反などをはじめ、研究に関する法的対応やライセンス契約・国際契約の支援を行う。法的支援

# 名古屋大学における研究支援構想

1. 大学の研究戦略に沿った大型研究プロジェクト等の戦略的な提案・実施のための研究支援一貫体制を整備。
2. URA10名を雇用し、既雇用的人员を含めたURA組織を整備。既存組織と密接に連携。
3. 政策ニーズの収集・研究シーズの探索から、プロジェクト立案・申請、運営管理、法的・倫理的支援、フォローアップ、研究成果発信までの総合的支援を実施。
4. URAの育成カリキュラムの策定、シニアURAを活用したURA育成システムを整備。地域他大学等へ普及。
5. 事業終了後は、URA及び事務部の専門職として雇用、一貫支援体制を継続。

# 名古屋大学URA室の支援内容

**従来の研究支援**  
(個々の研究者への対応)

公募情報の提供

説明会の開催

申請書・ヒアリング対応

安全保障貿易管理・利益相反管理・カルタヘナ法対応

知的財産の確保

論文紹介

技術移転先の紹介

名大カフェ

プロジェクト立案

プロジェクト申請

プロジェクト管理

フォローアップ

研究成果発信

ニーズの収集

申請書の作成

プロジェクトの進捗管理・報告書作成等

知的財産の確保

一般社会への発信（アウトリーチ活動の組織化、あいち・サイエンスフェスティバル等）

研究者の探索

技術移転先の紹介（産学連携窓口としての専門職育成）

**本事業の研究支援**  
(大型プロジェクト等に特化した一貫支援体制)

行政への施策提案

自治体・産業界への働きかけ

コンソーシアムの構築

大型プロジェクト申請

安全保障貿易管理・利益相反管理・カルタヘナ法対応（専門職の育成）

事業化プロジェクト

産業界への発信（展示会出展担当者の育成）

応用研究・社会実証

研究の不正防止（専門職の育成）

専門人材育成・地域大学支援（URA等）

海外への発信（途上国支援への展開）

## プロジェクト形成

■ 主にシニアURAが行い、関連分野のURAが支援

■ 主にURAが担当

## 研究支援

■ 法的・倫理的支援（専門職の育成）

## 研究成果発信

■ サイエンスコミュニケーター（一般社会）および専門職（産業界）の育成

## プロジェクト管理等

■ 個々の外部資金によるURA相当職が担当

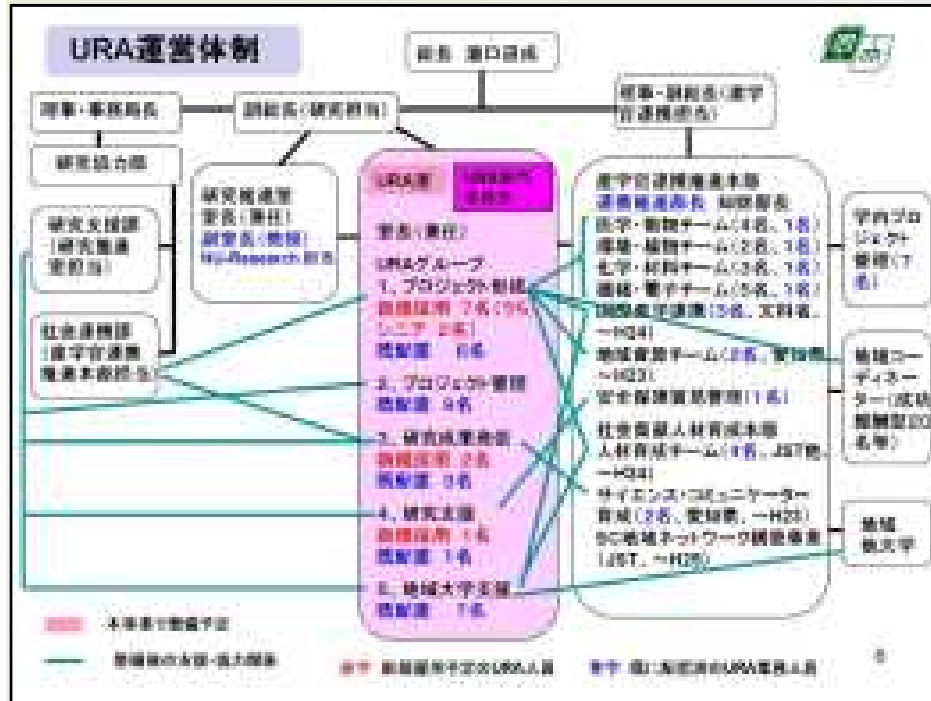
# 1. URA組織体制整備構想の進捗状況について

- ① 大型研究プロジェクト等の戦略的な提案・実施のための研究支援一貫体制の整備を目指して名古屋大学におけるリサーチ・アドミニストレーション体制の整備に着手。
- ② 当初構想では、平成25年度末までに研究推進室及び産学官連携推進本部との連携により、URA組織が自律的に活動できる体制の構築が目標。
- ③ その後、産学官連携推進本部に対する補助事業の終了を踏まえ、平成24年夏から、URA組織を含む大学の研究支援体制を抜本的な見直しの検討に着手。

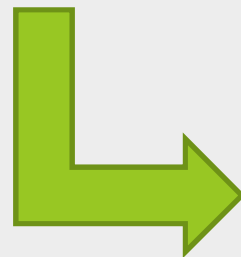
基本的な方向性については既に合意し、本年度中に移行手続きを完了予定。7月7日には、URAと産連CDの居室を統合予定。

- ④ 拠点形成型プロジェクトの申請支援でプロジェクト代表者から高く評価されるなど、URAとしての活動の効果が出始めている。

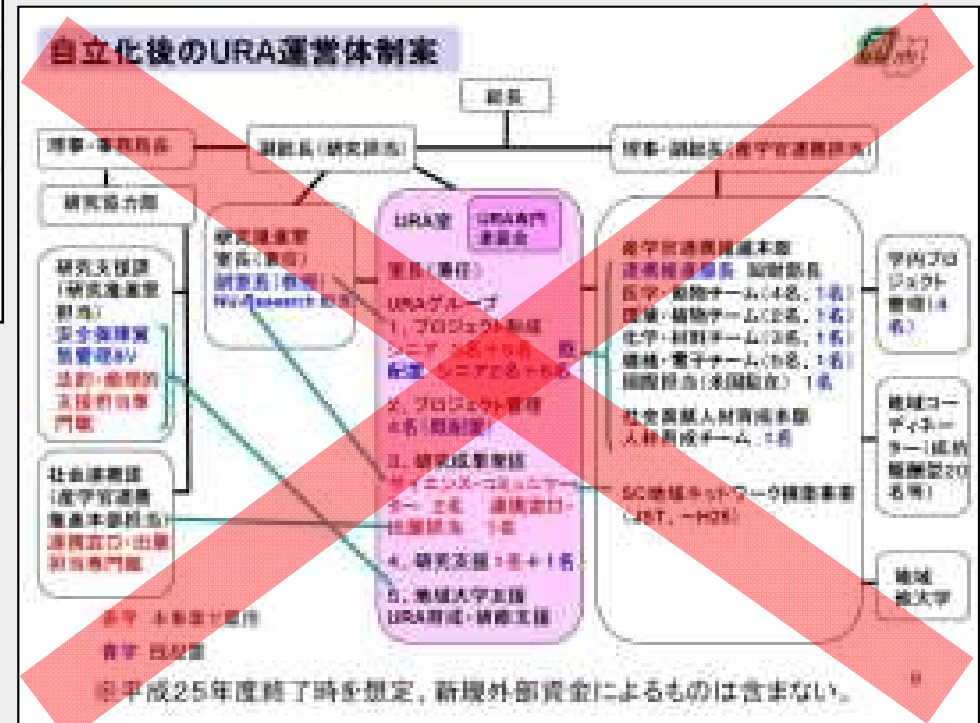
# H23年当初構想時のURA室と関連部局との関係



H23年2月  
URA発足時



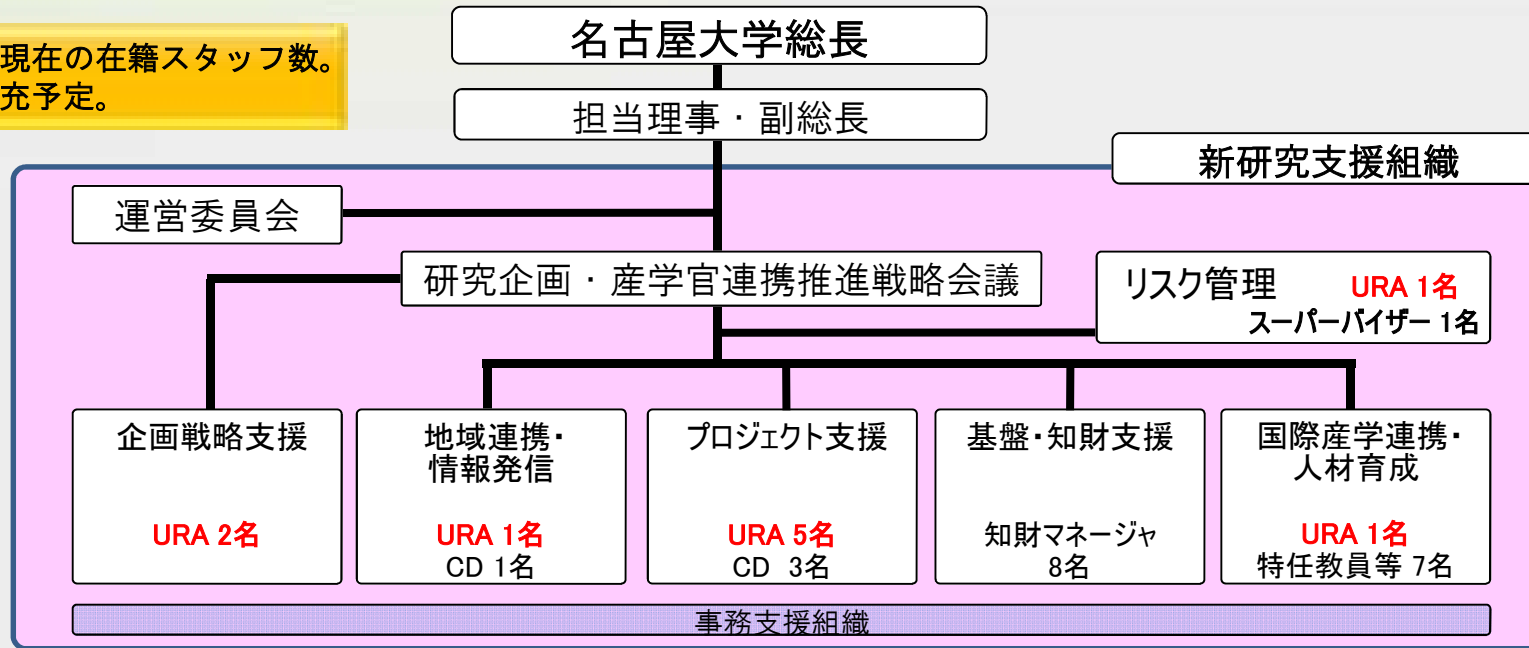
H26年4月  
URA自立化後





# 移行手続き中の新研究支援組織のイメージ

※人数は現在の在籍スタッフ数。  
今後拡充予定。



- 担当理事・副総長の下に、従来は3つに分かれていた組織を一元化。
- URA及びCDは同一の指揮命令系統の下で協働。具体的には、本事業雇用のURA、既雇用のURA業務人員及びCDが、それぞれの専門・能力に応じて各チームの下で協働。
- 学内の研究者DB、研究動向分析を担う機能を独立して設置するとともに、政府の研究開発動向を踏まえ、学内の研究ポテンシャルを最大限活用した、戦略的かつ効果的な研究支援体制を構築。
- URA等の支援人員の新規採用による体制のさらなる拡充も検討中  
(研究大学強化促進費の「研究力強化実現構想」において具体策を盛り込む予定。)

## 2. URAの職務環境等整備の進捗状況について

- ① 要項の制定によりシニアURA及びURAをそれぞれ特任教授及び  
研究員として採用。
- ② 新研究支援組織への移行と、同組織におけるURAの配置、ミッ  
ション及びキャリアパスを明確化。
- ③ 現在は分散配置されている執務スペースも、新研究支援組織  
への移行を念頭に段階的に集約。新設予定の「国際科学イノ  
ベーション拠点」において研究支援事務組織とも一体となり  
under one roofの下で、活動を行う予定。

※本年7月7日にはURAと産連CDの居室を統合。

- ④ 各URAの担当業務内容に応じた評価指標を定めるとともに、独  
自の研修プログラムによる研修を実施。
- ⑤ 改正労働契約法を踏まえた対応については、URAのみならず教  
員全体の問題として現在人事労務担当部局において検討中。

### 3. URAシステムの定着・運営の安定化に関する取組状況

- ① URA室発足当初、学内教員向けのリーフレットを作成するとともに、全ての部局の教授会に出向いて、学内の研究支援体制、URA及び産連CDが行う研究支援の内容について説明。
- ② プロジェクト担当URAは個別の研究室訪問等を通じて、教員との人的な関係を構築（H24年度は1 URA当たり平均約100名程度の教員と個別にコンタクト。）。  
アンケート結果では教員から、一定の評価が得られている。
- ③ 他方、URAの研究支援キャパシティは限界に近づいており、より効率的な支援方策へと改善の要あり。
- ④ URAシステムの定着・運営の安定化に向けては、研究支援組織の抜本的な見直しにより対応。

## 4. URAシステム整備(改革)に対する学長及び関係役員の責務について

- ① 総長より、研究支援体制の抜本的な改革を進める中で、URAの積極的な活用を含む体制の整備を指示。担当役員（理事(研究担当)・URA室長）が主体的に調整を実施。
- ② 文部科学省のH25年度新規施策である「研究大学強化促進費」の理念を念頭におきつつ、URAの積極的な配置と、大型プロジェクトによる雇用も含めた対応について検討中。
- ③ 将来的には競争的資金の間接経費の一部を回収し、研究支援者組織維持体制を目指す（検討中）。

# 【事例】 研究支援体制の改革と URAの積極的な活用に関する取組

## ○概要

産学官連携組織及びURAを含む研究推進組織を抜本的に見直し、再編・統合。新たな研究支援体制推進体制を構築。

## ○スケジュール

平成24年8月 検討開始

25年4月 組織体制について基本的な合意

7月 一部居室の先行統合(URAとCDがUnder one roofで活動)

秋頃 諸規定の整備、その後新体制への移行

## ○浮かび上がった課題と対応

- 改正労働契約法への対応
  - 今後の政府における検討を踏まえ、URAに対する適正な評価及び明確なキャリアパスの設定の検討の加速が必要
- 無期雇用職員に対する年俸制の導入
  - 教員に対する導入とも合わせ、大学における職員の雇用形態の改革の中で、URAに対する適用について要調整。

# URAの活動実績 1

## ～拠点型プロジェクト形成支援(WPI)の例～

### ポイント

- ・学内での候補絞り込みの段階から担当URAが学内研究者の会合に参加、採択後は同会合が拠点としての正式なPI meetingに移行。担当URAは欠くべからざるチームの一員として活動。

### 【支援の概要】

#### 〔公募開始前〕

- ・政府予算案に盛り込まれた後、学内公募。
- ・応募のあったチームの研究力の分析
- ・先行拠点の調査・分析

#### 〔公募開始後〕

- ・学内候補一本化のための調整  
(学内ヒアリング等)
- ・学内関係部局との調整 (本部事務(人事、財務、施設、研究、国際)及び関係部局との事前調整)
- ・申請書作成支援 (データ収集、申請書の一部執筆、英文資料作成、提出書類の印刷等)
- ・ヒアリング審査用資料作成支援  
(学内模擬ヒアリングの実施 等)

#### 〔採択後〕

- ・交付申請書類作成支援 (政府調達に係る事務のうちの技術的支援、英文資料作成等)
- ・生命倫理・カルタヘナ法対応支援
- ・アウトリーチ活動支援 (キックオフシンポジウム開催支援、他拠点との合同シンポ等への対応 等)
- ・海外PIとの調整 (海外PIを訪問し、所属機関との知財等の権利関係の調整、研究設備整備等に係る調整等)
- ・PDPOサイトビジット等対応、政府要人等来訪対応支援
- ・活動報告書作成支援

#### 〔拠点長(研究代表者)の評価〕

- ・担当URAの存在無しには、そもそも申請にすら至らなかった可能性がある等、極めて高い評価。

# URAの活動実績 2

## ～アウトリーチ活動支援の例～

### ポイント

- ・ 教員の責務とも言えるアウトリーチ活動の実施を効果的に支援し、教員の研究活動の時間を確保するとともに、市民との効果的な科学技術対話を実現。

### 【支援の概要】

#### 〔アウトリーチ活動の場の提供〕

- ・ 研究者がアウトリーチ活動を行う意義・必要性の周知活動を行うとともに、効果的なアウトリーチ活動の場を設け、提供。
- ・ 研究者が自ら企画し、広報を行う等の労力の軽減を図り、研究時間の確保に貢献。

#### ※特徴

- ・ 講演会等、研究者からの一方的な説明とするのではなく、研究者との直接対話が可能となるような形式を主に採用。
- ・ 参加者が実際に行うことができる実験教室や、第一線の研究者の実験室を実際に紹介する等、工夫して実施。

### 〔実施した主なアウトリーチ活動〕

- ・ 名大オープンレクチャー
- ・ 名大カフェ
- ・ あいちサイエンスフェスティバル
- ・ 名古屋スペースキャンプ
- ・ 中・高生向け実験教室等の開催 等

### 〔成果〕

- ・ 支援を行った学内研究者数：32名  
(学外研究者数：4名)
- ・ アウトリーチの場に参加した、中・高生及び一般の方々の合計数：1,224名

### 〔評価〕

- ・ 研究者からは、研究時間の確保にプラスになったとの評価。
- ・ 参加者からは、研究者が身近に感じられた、研究への関心が高まった等の評価。



# S-URAの役割と活動実績

## ポイント

- ・若手URAの育成とともに、拠点形成型プロジェクトの形成や学内の研究支援組織の再編において、S-URAとしての知見・能力を発揮。

## 〔S-URA〕

- ・ 2名のS-URAを配置
  - －ライフ・イノベーション担当
  - －ものづくり担当
- ・ いずれも企業の研究開発経験者で、博士号を保有。
- ・ 企業及び大学において、産学連携の経験あり。
- ・ 他のURAとのチームとしての活動を通じ、若手URAの育成に大きく貢献。
- ・ 研究支援組織再編のための学内検討の過程においては、URA活動の前線を支える立場から貴重なインプット。

## 〔主な活動実績〕

- 拠点形成型プロジェクト申請支援に際し、URAチームの対応の要として活躍、採択に貢献
  - 〔具体的な成果〕
    - ・ 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)
    - ・ 地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業
    - ・ リーディング大学院（申請支援継続中）
- チーム型研究プロジェクトの申請に際しては、若手URAを指導しつつ研究者を支援し、採択に貢献
  - 〔具体的な成果〕
    - ・ 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
    - ・ IT融合による新社会システムの開発・実証プロジェクト
- 橋渡し研究加速ネットワークプログラム/ 臨床研究中核病院整備事業において、採択後の他大学や企業との連携において、コーディネート力を発揮。